

園長だより

朝夕の寒さも厳しくなってきましたが、日中はお日様の陽ざしが心地よく穏やかに過ごせる日もあります。こどもは風の子と言うものの、やはり暖かい日差しの中で活発に遊ばせてあげたいものです。

3歳児以上は生活の中で劇遊び、劇活動が中心的な活動となってきました。取り組む題材も決まり、演じる(お話を基に遊ぶ)ことと大道具づくりなどにも取り組みはじめました。

我が子がどんな劇をするのかなと関心がある方も多いことでしょう。

おおぞら保育園で題材の選定については以下のように考えています。

大まかな概略ですがお知らせ致します。

子どもにとっての劇活動

劇の題材はどう考えているの

取り上げられている題材、子ども達の劇のベースは主に絵本です。おおぞらでは主に昔ばなし、(語り継がれているもの)ストーリーが子ども達にわかりやすい内容が基本になっています。

各年齢の主目標やめあてを子ども達の育と照らし合わせて実践するには、子どもの地点に立ち、活動するために適した、題材を選び、選ばせてあげることが必要です。

昔話

お話が起承転結 お父さんもお母さんもみんな知っているもの。聞き手の子ども達、みんなにわかりイメージの共有がしやすいもの。

こどものよみとりやすい内容(本の一例)

劇あそびでとりあげているもの

- ・3びきのやぎのがらがらどん
- ・おおきなかぶ
- ・てぶくろ
- ・さるじぞう
- ・かにむかし(さるかに合戦)
- ・ねずみのよめいり
- ・おおかみと七ひきのこやぎ
- ・ブレーメンの音楽隊
- ・ポンタのじどうはんばいき
- ・どうぞのいす
- ・かちかち山
- ・三匹のこぶた
- ・ももたろう
- ・おむすびころりん
- ・かさじぞう



さあ、みなさんはいくつのお話を知っていますか？

ほとんどが子どもの頃に読んだことのあるまたは読んでもらったことがあるお話とします。子ども達が好きな絵本(話)はみんなが話の内容を理解できる筋書きがあります。起承転結に又はおおきなかぶのように繰り返し進んでいくもの、子ども達は、心地よく大人に読み聞かせてもらうなかで話のストーリーを理解していきます。

長編(昔話他)

劇の題材には近年出ていないもの

子ども同士のイメージの共有や劇作りには丹念な活動内容の工夫が必要です。場面の多さや興味、対象の違いがあり、話し合いが進められない等、子ども達にゆだねた活動が展開されにくいものがあります。先に上げたものより大人が、保育者が入りすぎる、(あれこれと指導する)傾向にあります。

長編の場合、ピアノ伴奏、音楽を加えたオペレッタ、音楽劇というものが主流で、大人が構成したもので進めます。市販のマニュアルもあり、大人が管理、指導する傾向が強いとされています。

おおぞらでは子ども達にゆだねた活動が展開されることを期待し長編のものは近年、題材に選定していません。

- ・ピノキオ
- ・シンデレラ
- ・アリババと盗賊
- ・おやゆびひめ
- ・人魚姫
- ・ピーターパン
- ・白雪姫
- ・アラジン
- ・オズの魔法使い
- ・長靴をはいた猫 等

題材について述べてみましたが子ども達みんなにわかりやすい内容の絵本をなぜ選んでいるのか5歳児の姿からお伝えします。

5歳児から

5歳児では仲間と共につくりあげていくことを願っています。できるだけ子ども達に活動をゆだね。思いや考え、気づきを活動のなかで出し合い取り組んでほしいを願っています。つくりあげていくプロセスを大切に考え、指摘あり、けんかあり、試行錯誤し、活動の中でおこった問題を仲間と解決してほしいとも願っています。子ども達が題材となっている話のイメージを共有し、仲間と作り上げていく楽しさを感じてほしいものです。ですから、劇活動の大筋を子ども達の手ですすめていくために題材の選定は大切です。

長編よりも起承転結で子ども達のイメージが共有できることが望ましいと考えます。

3歳児の生活から

親が我が子の劇をみて育ちを理解する。また、他の子どもの劇をみることでその年齢の育ちや園の保育を理解してほしいと願っています。

子ども達は先生が読み聞かせてくれたお話(絵本)をもとに遊んでいく、役になりきり、先生とのかかわりを楽しみながら、友達と一緒に遊んでいることを心地よく感じる。

前号でも触れましたが、そもそも、劇遊び(活動)は発表を1番の目的にしていません。子ども達の遊びの中に個々が感じる楽しさ、仲間と一緒に、先生と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、遊びを通じて仲間との関係を育んでほしいと願い取り組んでいます。

特に3歳児は普段の遊びと等質のものが発表会でみられ、普段の遊びの一コマが純粋にでてくれればと思っています。

「あー 我が子はこんな遊びを先生やお友達としているんだ」と感じていただき園生活を大人の手を借りながらも、自分たちの手で(年齢なりの)進められるようになってきたと実感していただけたら幸いです。

この時期、生活の中で中心となる劇遊び、この先の子どものみせてくれる姿にわくわくしています。

※園長だよりは当ホームページおおぞら通信より閲覧できるようになりました。

(園長 廣部 信隆 10)